

# カンボジア選挙監視に参加して

高原浩実(武蔵大学社会学部社会学科)

## 初めてのアジアで

私はアジアの国に旅行をするのは今回が初めてでした。ちなみに、最初のカンボジアで聞いたことのあることといえば「地雷」「アンコールワット」「物乞い」など、けて良いものではありませんでした。しかし、一見は百聞にしかず…。これをまさに、体験した旅でした。

来るときの飛行機の中で私はこの旅行の中で最初の感動を覚えました。それは、川です。かの有名なメコン川を上空から見て隆々と流れる赤茶けた水とその州の中にも建つ建物の数々に昔、社会科の授業でやった三大文明なんかを思い出しこの旅の始まりをひたすらワクワクどきどきしていました。

しかし、私はプノンペンの町でなんだかとても「違和感」を覚えました。それは、プノンペンの町の道は大通りから一歩外れれば道は砂利であるのに、インターネットは町中にあり、しかもそこに入っているDVDも入っていたり…。「あれっ。私が知っている順番と違うのではないかな？」とアジア初の私は思ってしまったのです。なんだか、昔にタイムマシーンとかで急に先端機器が持ち込まれてしまったみたいに思えました。カンボジアという国が援助によって満たされているのだけど、カンボジアが本来歩むべき順番を踏み違えてしまっているのではないかと思ってしまうました。

コンボンスプーの町はカンボジアに来る前に思い描いていたような田舎町でした。プノンペンからたったの一時間強くらいしかたっていないのにビルなんかは全くなく、水田と歩く牛、豚、鳥。そして、やはり大人と比べて子供の数がとても多く感じました。でも、やっぱり子供と動物の可愛さは世界どこに行っても一番かわいいと思いました。コンボンスプーではDDRの人々との出会いインターバンドの人々との出会いはとても私にとってこの旅で忘れられないものになりました。

## 選挙と選挙への住民の思い

日本で選挙といっても、投票率は60%前後なのにカンボジアの選挙は私たちの活動した所で84%、それでも少し低いとあってとても驚きました。そして、インタービューした人たちのコメントで「政府を変えたい。」というコメントがありました。だから、選挙に行くと。私は在日韓国人なので日本で選挙権はないけれど、正直それほど羨ましいとか思ったことはありませんでした。自分の一票というもの、つまり選挙というもので日本を変えられるなんて思ったこともありませんでした。私だけではなく、日本では選挙で政府を変えて、自分たちの生活を、国を良くしようとなんて考えている人なんて本当にとっても少ないのではないかと思います。少なくとも私の周りでそれを口にしてる人は見たことがありませんでした。なんだか、カンボジアの人たちがとても未来への希望に満ちていてうらやましく思い、同時に自分たちが恥ずかしく思え、こんな私が選挙監視員をやっていて良いのだろうかと思ってしまうました。

また、投票所にきている人はみんなおしゃべりしているように見えました。そして、投票が終わっても投票所の前でみんなでおしゃべりをしたり、投票所の前に来ていたアイスを食べたりと、みんな選挙

をお祭りかなんかのように選挙を楽しんでいるように見えました。もちろん、投票所の敷地内にお店が出るのが良いことであるかは疑問ですが。カンボジアでも、日本や他の発展国のように選挙に自分が一票を入れても何にも変わらないと思う人が出てしまうかもしれません。しかし、祭り騒ぎであつてもそれでも選挙に行くことをやめてほしくないと思いました。今の気持ちを是非忘れないで欲しいと思います。

私が選挙監視をしていて思ったことは、私たちの常識というのはここでは常識ではないということ。まず、選挙の日に思ったことは投票所に入る時に列に並ぶこと。それが出来ていずに団子のように入り口に溜まってしまつて出るにも出られないし明らかに不便に見えるのに並ばせようという発想につながらないのは、まだその教育が当たり前になるくらいには出来ていないのだから、それはマニュアルのようなものにし強制する必要があるのではないのかなと思いました。日本は当たり前のように列に並ぶ国ではありますが、それは小さいころからされている教育の結果なのだろうと思いました。そして、カンボジアの人たちにはまだその教育がちゃんとなされていないのだろうと思います。しかし、同時に私たちの視線でものを見てはいけません。そこが、異文化である国を援助したりするのは難しい点なのかなと思います。自分たちが一番良いはずもないのだけれど、自分たちの文化、制度を押し付けがちになってしまう気がします。だから、ちゃんと押し付けではなく必要最低限の手助けを考える必要があると思います。

### 今の住民の暮らしと未来への思い

コンプンスプー地区では、インターバンドの事務所の方が私たちの活動を手助けしてくれました。私たちが投票所をまわっている時、通訳の人が投票所にあつたポスターを説明してくれました。そのポスターは「選挙に行こう」と呼びかけているポスターなのですが、そのポスターの絵は左側が今の生活、中央に投票している女性が書かれていて、右側には高速道路や飛行機やビルなどの近代的な社会が描かれていました。選挙に参加して、カンボジアが発展させよう、ということらしいです。

私はもちろん、病気は無くなった方が良いと思うし、みんなが貧困から抜け出せればよいと思います。これは私が暮らしているわけでもないから言えるおごりなのだとも思うのですが…。今回、カンボジアとタイのバンコクを旅して、もちろんどつちの子供も可愛かつたし良い人ばかりでした。でも、バンコクには日本でも感じるスレタというか、荒んだところがあるように思えました。それは近代化してしまつたが故の変化のように感じてなりません。私はカンボジアが大好きになつたし、カンボジアのこれからはとっても楽しみです。私にも、何か出来ることがあれば進んでお手伝いをしたい気持ちでいっぱいです。でも、近代化し、今のカンボジアの良いところがなくなつてしまつたらと思うとついつい寂しく思つてしまいます。でも、私が通訳のナリッさんに「あなたももちろんこうなって欲しいよね？」と聞いたとき、彼は「もちろんだよ。国民のみんなが願っているよ。」とあの大きな目をいっぱいに開いて言っていました。私はこのときの彼の表情が忘れられません。本当にカンボジアが良い方にドンドンいつてほしいなと願っています。

### 最後に

私のような学生をこの重要なミッションへの参加を許してくれたインターバンドの皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ここでは、観光でカンボジアに来ただけではわからないような選挙監視という経験、DDRの方々とふれあい、どれもすばらしい経験でした。また、日本からの人たちでなく ANFREL と一緒に行動したことによってまた面白みが増したように思います。そして、参加した皆様に色々な刺激を頂きこれからの自分の方向かを考え、悩みが増えつつも、今何が足りずに何をす

べきなのかというのが少しわかったような気がします。この時期にこのカンボジア総選挙に参加し、皆様と一緒にできた事を本当によかったと心のそこから思います。また、もっと勉強をして知識を増やしてからまた、選挙監視にも参加したいです。本当にありがとうございました。